

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 3年 3月 23日

事業所名 スパーク草津店

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		受け入れ児童に対し、同じ数の職員が訓練室に入るので、安全面と特性に考慮しつつ空間を作っている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		法令で必要とされている配置数に加え、指導員を2名から3名多く配置。	
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		利用する子どもに合わせて、療育道具の数を調節する等、特性に配慮している。バリアフリー化に関しては、玄関に段差があるが、サポートを行いつつ運動に繋がる様配慮している。	
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	○		事業目標と個人目標を設定し、定期的に管理者による面談等を踏まえ振り返りにしている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		1年に1度の保護者向け評価表によりアンケートを実施している。またアセスメントのタイミングで面談を行い以降の聞き取りを行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページに公開している。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者評価は実施していない。必要に応じて、取り入れていく。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		定期的に研修の機会を設けている。	
適切 な 支 援 の 提 供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		児童発達管理責任者を中心に、全職員と連携を取りながら作成している。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		スパーク協会が独自に設けたアセスメントツールを使用している。	
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		支援計画をもとに、必要なアプローチ等話し合っている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの興味に寄り添い遊びが中心となるので、プログラムは固定化し辛い。また、直近の療育内容を確認し、プログラムに変化を付けるように工夫している。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している		○		60分の療育のため、平日休日に関わらず、子どもに合わせた療育メニューを設定している。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの興味に合わせて遊びを展開し、必要な場面で、他児との関わりに繋がるよう、アプローチしている。	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎療育前に、支援計画とともに子どもの様子を共有し、療育の打ち合わせを行っている。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		サービス提供記録とは別に、毎療育後に振り返りシートにて療育内容の振り返りを行っている。療育後の共有が難しい場合は、上記のシートを活用し、情報共有の漏れがないように取り組んでいる。	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		毎療育後、サービス提供記録を記入している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		少なくとも6ヶ月に1回、児童発達管理責任者を中心にしている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		各々に合わせ、複数組み合わせ支援を行っている。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		今年度は開催されていないが、会議が開催された際は、児童発達支援管理責任者、もしくは事業所の管理者が出席している。	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	○		事業所と学校が直接連携は取っていないが、保護者を通して、必要な情報を共有してもらっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		該当者なし。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		保護者からの要望がある場合、また関係機関から依頼があった場合に情報共有を行っている。（保護者の承諾を得られた場合のみ）	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		該当者なし。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		必要に応じて、連携をとっている。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		実施していない。1時間の療育の為、機会を作ることが難しい。
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	○		協議会や研修がある際は、積極的に参加するようにしている。	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		毎療育後に、子どもの様子について話す時間を設けている。	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		○		プログラムとして設けてはいるが、場面にに応じて、療育への参加を促している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約の際に実施している。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		必要に応じて実施している。	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		保護者会等は実施していない。また、個別療育であるので、そのような会を望まれない声もある。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		相談や申入れがあった場合、全職員に共有し、対応している。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		SNSを通して、情報の開示はしているが、定期的には行っていない。
	35	個人情報に十分注意している	○		同意書のもと、使用の際は、事前の許可をいただいている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		子どもや保護者に合わせてアプローチしている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		1時間の療育のため、地域との交流等、実施していない。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		周知は行っているが、訓練は、職員のみで実施している。	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		半年に1回実施している。今後は利用時間中の訓練も検討していく。	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修を実施している。	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		支援計画書に記載していないが、やむを得ず身体拘束を行う場面については、契約の際に、説明している。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		療育中に食事の時間はないため、医師からの指示等は受けていない。契約時にアレルギー等に関しての確認は行っている。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		作成、共有し、保管している。	